

オオタカ

Accipiter gentilis (Linnaeus)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県ではこれまでに9ペアの繁殖地が確認されたが、その内7ペアは消失もしくは生息状況が悪化しており、繁殖個体群の個体数は安定していない。

種の特徴

全長は47～59cm、翼開長106～131cmで雌の方が大きい森林性猛禽類である。成鳥の背～尾にかけては青灰色で、下面は白地に黒く細かい横斑が一面にある。頬は青黒色で眉斑は明瞭である。主に中小形の鳥類や哺乳類を捕食する。

分布

北海道～九州の平地～山地の林に生息している。本県では緩やかな傾斜の山林に生息するが、生息適地は多くない。また定着個体の消失も多く、分布はかなり限られている。

生息を脅かす要因

生息及び繁殖のためには、多様な餌動物相が維持された営巣林を必要とするため、本種が好む傾斜の緩やかな森林の保全が必要である。また、繁殖期の営巣地付近への人の接近は繁殖行動を阻害するため、森林施業や土木工事の時期には配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、森岡ら（1995）、高野（2015）、中村・中村（1995）

| 市町別 生息情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|-------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

クマタカ

Nisaetus nipalensis Hodgson
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内の山地帯に広く分布しているが、森林生態系ピラミッドの頂点に位置し、行動圏が広い種であるため個体数は少ない。また、近年の繁殖成功率は減少傾向にあり、生息条件が悪化している可能性がある。

種の特徴

全長70～83cm、翼開長140～165cmで、雌の方が雄より大きい大形猛禽類で、傾斜の急な低山～山地帯に留鳥として生息している。アカマツやスギ等の高木に営巣し、中小形の哺乳類や鳥類、爬虫類や両生類等多様な動物を捕食する。

分布

九州以北の山地帯に留鳥として生息している。本県では里山～山地帯にかけて広く分布しているが、成熟した落葉広葉樹林、スギやアカマツの老齢木がある林を好む。

生息を脅かす要因

生息及び繁殖のためには、多様な餌動物相が維持され、営巣可能な老齢木がある森林生態系を必要とするため、成熟した森林の保全が欠かせない。また、繁殖期の営巣地付近への人の接近は繁殖行動を阻害するため、森林施業や土木工事の時期には配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、森岡ら（1995）、高野（2015）、中村・中村（1995）

| 市町別 生息情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|-------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

ヤマセミ

Megaceryle lugubris (Temminck)
ブッポウソウ目・カワセミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

かつて本種の生息記録があった地域と本種の生息可能域において、網羅的に調査した結果、出現率が13%と大変低かった。本種はかつて、県内全域の渓流や山地の湖沼に普通に生息する種であったことから、生息数が急激に減少し、絶滅の危機に瀕していると推察された。

種の特徴

全長37.5cmで、国内のカワセミ類では最大である。雌雄ほぼ同色で、頭部～尾は白黒の鹿の子模様、頭には冠羽が目立つ。餌のほとんどが、山地の渓流や湖沼に生息する川魚で、これらを水中に飛び込んで捕食する。そのほかには、両生類、サワガニ、昆虫類も食べる。

分布

留鳥または漂鳥として、九州以北で繁殖する。本県でも周年、県内全域の渓流や山地の湖沼等に生息し、水辺近くの土崖に巣穴を掘って繁殖する。

生息を脅かす要因

本種の生息を確保するには、山地帯における魚類の多様性と巣穴を掘ることができる土崖のある環境を保全することである。本種の急激な減少は、このいずれかの環境が消えつつあることを示唆しており、早急に現状を調査し、保護対策を講じるべきである。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西ら（2014）、高野（2015）

| 市町別 生息情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|-------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |